

国語復習プリント漢文②（仮定・比較・比況・選択・限定・累加・抑揚・願望・倒置の復習）

① 次の各文を書き下し文にし、口語訳しなさい。

① 王如善^レ之^ヲ、則何^レ為^ル不^レ行^ハ。

② 縦上^ヒ不^レ殺^サ我^ヲ、我不^{ラン}愧^ヂ於^ニ心^ニ乎。

③ 吾雖^モ死^{スト}、不^ル子^ニ從^ハ一也。

④ 今王与^ニ百姓^一同^レ樂^シ、則王^チ矣^{タラン}。

⑤ 微^{カリセバ}二 吾子^一、無^{カラ}所^ク聞^ク之^ヲ矣。 吾子…あなた

⑥ 不^{ンバ}殺^サ、必^ズ害^{アラ}。

⑤ 次の各文を書き下し文にし、口語訳しなさい。

① 今独^リ臣^{ノミ}有^レ船^リ。

② 法^ハ三章^ニ耳。

⑥ 次の各文を書き下し文にし、口語訳しなさい。

① 臣不^{シテ}二 惟^{ダニ}能^{クル}造^ミ一 舟^ヲ、而^チ又^チ能^{クル}操^ル舟^ヲ。

② 反^ク者^ソ何^リ独^リ我^{ナランヤ}。

② 次の各文を書き下し文にし、口語訳しなさい。

① 行^ク地^ヲ者^ハ莫^シ如^ク馬^ニ。

② 衣^ハ不^レ如^カ新^{シキニ}。

③ 齊^ハ大^{ナリ}於^ニ魯^{ヨリ}一。

④ 樂^{シミ}莫^シ大^{ナルハ}焉^{ヨリ}。

⑧ 次の各文を書き下し文にし、口語訳しなさい。

① 願^{ハクハ}将^{カレ}軍^フ勿^レ疑^フ。

② 臣^フ請^{ハン}行^レ之^ヲ。

③ 王^{ハクハ}庶^ヘ幾^メ改^{メヨ}之^ヲ。

④ 吾^ス欲^メ辱^{メント}之^ヲ。

④ 次の各文を書き下し文にし、口語訳しなさい。

① 寧^ロ為^{ルモ}二 鷄^ト口^一、無^{カレ}レ為^{ルコト}二 牛^ト後^一。

② 吾^ロ寧^{ハストモ}闘^ヲ智^ヲ、不^ハ能^{ハス}レ闘^{ハス}力^ヲ。

③ 長^ハ安^ニ何^ノ二、如^ノ日^{キニ}遠^ニ一。

④ 与^{リハ}三^ノ其^ノ害^ニ於^ニ民^ニ一、寧^ロ我^リ独^リ死^{セン}。

⑤ 生^{キテ}而^メ辱^{ラルハ}不^レ如^カ二 死^{シテ}而^{アルニ}榮^ニ一。

⑦ 次の各文を書き下し文にし、口語訳しなさい。

① 困^{スラ}獸^{ホフ}猶^{シヤ}闘^ヲ。況^{ンヤ}人^ヲ乎。 困獸…追いつめられた獣

② 臣^{スラ}死^ツ且^ツ不^レ避^ケ。卮^{クン}酒^ン安^ニ足^{ランヤ}レ^{スルニ}辞^ス。 卮酒…大杯の酒

⑨ 次の各文を書き下し文にし、口語訳しなさい。

① 菊^ツ之^レ愛^ス。

② 今^シ事^ニ無^シ疑^ヒ、何^ノト^ヲ之^レ為^レサ

国語復習プリント漢文② 解答

1

① 書き下し文 王如し之を善しとせば、則ち何為れぞ行はざる。

口語訳

王様がもしこれをよいとお考えならば、どうして実行されないのですか。

② 書き下し文 縦ひ上我を殺さずとも、我心に愧ぢざらんや。

口語訳

たとえ上様が私を殺さなくても、私は心の中で恥ずかしく思わないだろうか（いや、恥ずかしく思う）。

③ 書き下し文 吾死すと雖も、子に従はざるなり。

口語訳

私はたとえ死んでも、あなたには従いません。

④ 書き下し文 今王百姓と樂しみを同じくせば、則ち王たらん。

口語訳

今仮に王様が人民とともに楽しむようになされるなら、天下の王となられるでしょう。

⑤ 書き下し文 吾子微かりせば、之を聞く所無からん。

口語訳

あなたがいなかったら、これを聞くことはなかっただろう。

⑥ 書き下し文 殺さずんば、必ず害あらん。

口語訳

殺さなければ、きつと害があるだろう。

2

① 書き下し文 地を行く者は馬に如くは莫し。

口語訳

地を行くものは馬に及ぶものはない。

② 書き下し文 衣は新しきに如かず。

口語訳

衣服は新しいものには及ばない。

③ 書き下し文 齊は魯より大なり。

口語訳

齊の国は魯の国よりも大きい。

④ 書き下し文 樂しみ焉より大なるは莫し。

口語訳

これより大きな楽しみはない。

3

① 書き下し文 楚人皆之を憐れみ、親戚を悲しむがごとし。

口語訳

楚の国の人たちはみなこれを憐れみ、親戚の人の死を悲しむようであった。

② 書き下し文 白髪霜草のごとし。

口語訳

白髪は霜のおりた草のようである。

4

① 書き下し文 寧ろ鶏口と為るも、牛後と為ること無かれ。

口語訳

鶏の口（小国の主）になる方がよく、牛の尻（大国に臣従する立場）になつてはいけない。

② 書き下し文 吾寧ろ智を闘はすとも、力を闘はすこと能はず。

口語訳

私は知恵を戦わせる方がよく、力を戦わせることはできない。

③ 書き下し文 長安は日の遠きに何如。

口語訳

長安（の遠さ）は太陽の遠さと比べてどうか。

④ 書き下し文 其の民に害あらんよりは、寧ろ我独り死せん。

口語訳

民に被害があるよりは、私がひとり死ぬ方がよい。

⑤ 書き下し文 生きて辱めらるるは死して榮あるに如かず。

口語訳

生きながらえて辱められるよりも死んで光榮ある方がよい。

① 5

書き下し文 今独り臣のみ船有り。

口語訳 今、ただ私だけが船をもっています。

②

書き下し文 法は三章のみ。

口語訳 法律は三条だけである。

① 6

書き下し文 臣惟だに能く舟を造るのみならずして、又能く舟を操る。

口語訳 私はただ舟を作ることができるだけではなく、また舟を操ることもできます。

②

書き下し文 反く者何ぞ独り我のみなんや。

口語訳 謀反する者はどうしてただ私だけだろうか（いや、私だけではない）。

① 7

書き下し文 困獸すら猶ほ闘ふ。況んや人をや。

口語訳 追いつめられた獣でさえ戦う。まして人はなおさらである。

②

書き下し文 臣死すら且つ避けず。卮酒安くんぞ辞するに足らんや。

私は死ぬことでさえ避けません。まして大杯の酒ぐらい、どうして断るほどのことがあるでしょうか（いや、断るまでもありません）。

① 8

書き下し文 願はくは將軍疑ふ勿かれ。

口語訳 どうか將軍様、疑わないでください。

②

書き下し文 臣請ふ之を行はん。

口語訳 私にどうかこれを行わせてください。

③

書き下し文 王庶幾はくは之を改めよ。

口語訳 王様、どうかこれを改めてください。

④

書き下し文 吾之を辱めんと欲す。

口語訳 私はこの者に恥をかかせたいと思う。

① 9

書き下し文 菊を之れ愛す。

口語訳 （他でもない）菊こそを愛する。

②

書き下し文 今事疑ひ無し、何の卜をか之れ為さん。

口語訳 今万事疑いない、どんな占いをしようか（いや、どんな占いもしない）。